

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092300043		
法人名	社会福祉法人上野村社会福祉協議会		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	群馬県多野郡上野村乙父630-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和6年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が生まれ育った村の中で生活できるため、外へ出れば知り合いも多く、見慣れた景色の中で安心して過ごして頂ける。また、利用者同士も知り合いであったり、つながりが分かる方が多いので安心につながっている。地元機関の協力も得られやすく、保育所、漁業共同組合、上野テレビなどとイベントを行ったりしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎年度スローガンを掲げ取り組んでおり、今年度はコロナ禍で外出などの機会が減り事業所内で生活が完結することがないよう、行事の企画に取り組んでいる。そうしたなか、職員の提案と地域のつながりを活かして、漁協共同組合の協力を得て事業所内で釣り竿を使って魚釣りをしたり、道の駅にアイスクリームを食べに行ったり、さつまいもを作って収穫したりなど、たのしみと利用者のこれまでの生活に密着したことが再現できる機会を作っている。村役場・へき地診療所との連絡体制が作られ健康管理が行われるなかで看取りにも取り組み、看取りにおいては家族の面会や宿泊も可能としている。また、看取り後は、職員がその方の想いを語る場を設け心理的負担の軽減を図っている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念の趣旨を理解し日々の業務において実践できるよう努めている。	法人理念の他に、毎年度取り組むべき目標をスローガンにして、今年度についてはコロナウイルスが感染法上5類になったこともうけて利用者が楽しめる企画の再開に取り組んでいる。スローガンに向けた取り組みについての振り返りはしていない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の漁協と釣りイベントを開催している。また、保育園児の敬老訪問、道の駅にソフトクリームを食べに行くドライブなどを行っている。	事業所は、高齢者住宅とデイサービスが廊下続きにあるため、行き来できる環境にある。利用者がこれまで通り地域で暮らし地域住民とふれあう機会をつくるため、認知症カフェへの参加の他、今後はいきいきサロンの活用も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流の際に認知症について理解を深めて頂けるよう配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会議で出た意見はサービスの向上につながっている。家族からの要望で面会の緩和、外泊の再開を行った。	運営推進会議は、家族代表と包括支援センター職員の参加で行われている。家族が村外の方が多く、会議への参加が限られているため、参加できない家族には会議の開催や会議の報告は口頭で伝えている。	事業所として、運営推進会議の意義をもとに参加メンバーを再考することに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月一回の保健、福祉、医療、の連絡調整会議を行っている。	月1回、保健福祉課・包括支援センター・へき地診療所と、保健・福祉・医療の連絡調整会議を行い、各分野の状況や方針が報告され、上野村全体の保健・福祉・医療の情報共有が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止検討委員会より配布された資料を職員全員が読み、身体拘束防止について意識を高めた。	利用者の安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するため、ベッドの利用・ベッド柵の配置などの検討が行われている。職員の利用者の行動を制限するような気になる言動が見受けられた場合には、連絡ノートに記載して注意喚起を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止検討委員会より配布の資料を職員全員が読み、虐待に当たる行為などを再確認できた。声掛けや、気になる点を連絡ノートで周知している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者の対応を保佐人と話し合い、その結果を周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時内容の説明を細かく行っている。契約内容の変更時には、家族に電話で変更の背景からわかりやすく話すようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とはlineや電話で細かく連絡を取るようになっている。家族の要望を受け、外泊を再開した。利用者の意見にも耳を傾け要望を実行している。	家族の意見を言えない心情を考慮して、職員が家族と関わりを持つことが大切と考え、利用者の衣替えや必要な物品の手配などを依頼して、関わる機会を作っている。家族の意見をもとに面会の人數制限を緩和したり、家族とのやりとりから感じたことを踏まえて、家族との連絡方法の使い分けにつなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱を設置し、匿名でも夜間でも意見が出せるよう配慮している。カギは責任者、管理者、代表者がもち、意見の内容を協議し反映させている。	朝夕のミーティングで利用者支援についての提案が主となるが、話し合いが行われている。職員用意見箱を設置して意見を出せるようにもしており、提案があれば具体的な課題と改善策を記載することで、反映につながることを伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者の指導の下、管理者は有休休暇の取得を勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は外部研修の計画を立て、申込み等行っている。現場にも入ることがあり、実際の状況を把握している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣町との合同講習会や勉強会を周知し参加を促している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時のカンファレンスで本人や家族の要望や不安なこと、困っていることを確認している。本人の話をしっかり傾聴し対応するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの質問にはできるだけ細かく丁寧にお答えするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	包括支援センターや保健福祉課とも情報を共有し、最善なサービスが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、ゴミ袋への記名、使用済みパッドを包む新聞紙をたたむ作業をして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の変化をご家族に伝え、相談しながら必要な物の用意をお願いしたり、村外の受診の送迎をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	みんなのカフェへの参加を再開し、馴染みの人と会える機会が増えた。散髪も村内の馴染みの美容師さんに来ていただいている。	地域性もあり外出することで顔見知りと会ったり、自宅近くの景色を見たりすることにつながっている。畑でさつまいもを収穫することで、これまで慣れ親しんできた農作業の一端に触れる機会となった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話に耳を傾け、問題が起りそうときには職員が間に入り、お互いに誤解が生じないように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたまま退所となった利用者の家族に時折経過をたずねている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者との会話から本人の意向を把握している。朝、夕のミーティングで職員間で共有し対応している。	職員が寄り添ってゆっくり過ごす時間をつくり、思いを掴むようにしている。お花見などの行事においても、個々の好みにあわせて花を愛でたり、散歩をしたりなどそれぞれがたのしめるような状況に誘っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅介護支援事業所からの情報提供書や本人、家族との会話からこれまでの暮らしの情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	高齢の利用者が増えており、その日の体調や本人の意向を考慮し、居室や畳で休んでいただくなどしている。また、出来ることは出来るだけして頂けるように声掛けをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者の担当職員と介護支援専門員がケアプランを作成している。3ヶ月ごとに担当が見直し、責任者が現状に即しているか確認している。	介護支援専門員と利用者の担当職員が、ケアプランを作成し、3ヶ月ごとに評価を行い、変更の理由を記載して、見直しにつなげている。夜間や日中の行動が変化をもたらすことにも考慮して、日々の記録や連絡ノートで情報を共有して、対応を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夕のミーティングでその日の情報をきょううし、連絡ノートや、個別記録へ記入して介護計画の見直しや介護の実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時の飲食の要望があり、しせつのホール内ではできないが、少し場所を移動して頂ければ可能になることを提案した。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容師さん2人に散髪を依頼し来て頂いている。また、みんなのカフェに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	へき地診療所がかかりつけ医となっている。医師、家族と話し合い、必要な場合は外部の病院を受診している。	へき地診療所がかかりつけ医となり、月1回の訪問診療が行われている。利用者の状態変化があれば、時間外であっても役場に連絡すると看護師による状況把握が行われ、へき地診療所の医師につないでいる。耳鼻科など他科については、家族により受診をすることとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の往診時に診療所に伝えており、必要な場合は役場を通し、休日・夜間でも相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に最新の情報を提供できるよう書類を整備している。また、退院時には病院の相談員と連絡を取り、退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のたいおうについての事前調査を行った。また、必要な時にもご家族に再度確認している。	常時医療的処置が必要な場合には、対応が困難なことを伝えている。家族の意向は、状況変化があれば再度確認して、家族の意向にそった対応を図っている。看取りの実績があり、看取り後は職員がその利用者の思いを語る場を設けるグリーフケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を消防署職員に行ってもらっている。まだ受講できていない職員も若干いる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社協全体で年2回避難訓練を行っている。隣接する保健福祉課、近隣住民と連携し有事にはサポートして頂ける仕組みになっている。	敷地内の高齢者住宅・デイサービスセンター等と合同の避難訓練を、年2回行っている。避難の際には利用者の氏名と必要な移動手段を書いた名札を準備しており、今後災害時の協力関係者にも伝えていく考えがある。3日分の備蓄を準備している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話の難しい利用者にも声掛けをして介助を行っている。	できることは本人にしていだくようにして、外出先でもお店の方に伝えて、利用者を尊重してその人の能力を大切に、できないところを支援している。同じ苗字の方も多いため、利用者が呼びかけでわかることを大切に考えて、下の名前で読んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	服を選んで頂く際には、選びやすいよう声掛けに配慮している。		
38		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ドライブや行事を行う際も、段取りはするが無理強いはず本人の意思を尊重している。横になりたい時は居室や畳で横になって頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人で使用するヘアクリームを用意したり、朝の整容時には利用者に確認して髪をとかずなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は敷地内の厨房で作られており、納豆やヨーグルトなどの個人の食べられない物を考慮して頂いている。食事形態と合わせて管理者が厨房に情報を提供している。	食事は村内高齢者の配食サービスを提供する厨房から、同じものが届けられている。年中行事にあわせた食事が提供されている。おやつ作りで流しそうめんやバーベキューをしたり、外出の際に外で弁当を食べたりして、たのしめる機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立てている。水分摂取が少ない利用者には好きな飲み物を家族に依頼し摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の能力に応じ、介助したり声掛けをして口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけ、パターンを知る事で誘導を行うタイミングを調整し、できるだけトイレで排泄して頂けるよう援助している。	日中はトイレで失敗なく排泄できるよう、排泄パターンやしぐさを見ながら誘導している。頻回にトイレに行きたい方には、行動を止めることはせずに、職員が対応できればトイレに誘導して、本人が安心してもらうことを大切に考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の少ない利用者の好きな飲み物を家族に依頼し提供している。また、体操で下肢を動かしてもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴は基本的には交互になるよう組まれているが、本人の体調や都合、希望に合わせて変更を行っている。	入浴は週3回午前中とし、デイサービスを利用して入居になった方などについては、長湯や温湯が好きなどの好みの情報提供を受けて、体調に考慮しながら楽しめるよう支援している。嫌がる方にはタイミングを図って声をかけたり、医師に扮して勧めたりして、入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めず、本人が眠りたい時に眠れるよう対応している。昼寝も本人の意思を尊重し、自由にして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルと薬箱にお薬情報を入れて共有している。受診時に医療経過の記入、変更があった場合は連絡ノートにも記入し、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	チラシでゴミ箱を折って頂いたり、裁縫が得意な方に衣類の補修をお願いしたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望をご家族に取り次ぎ、外出して頂いたり、花見や紅葉見学を企画し希望を募ってドライブに出掛けている。	コロナ禍より外出の機会が少なくなり、室内で楽しめる機会をしてきたが、天候の良い時期には、外で日向ぼっこができるようにしている。その他、月1回こいのぼり・あじさいなどの見学で外出する機会がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金は家族よりお預かりし、施設で保管している。本人はお金を所持していないが、必要時には使うことができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は社協に届き、事務所が取り次いでくれている。電話の希望があった時は職員が社協の電話でかけ、本人と変わるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは利用者に確認しながらエアコンの温度調節等行っている。正月飾り、七夕飾りなど季節の飾りをしている。	利用者の人間関係にも配慮して席を決めたり、職員が話題を変更したりして、気持ちよく過ごせるようにしている。ホールの畳のスペースは横になって休めるようになっており、テレビは2ヶ所配置して見たい方が見られるようにしたり、好きな過ごし方ができるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際2か所にソファを2つずつ設置し、少人数になれる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室では使い慣れた物を出来るだけ使用して頂いている。ご家族の写真、夫の位牌などを置かれている利用者もいる。	居室には、使い慣れたものを持ち込めることを説明しているが、自宅や高齢者住宅から入居される場合にはスペースに限りがあり動線の確保もあるので、まずは一番大切なものからと伝えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入り口に見やすく表記したり、居室の扉に名前を付けてわかりやすくしている。		